



道路沿いの電信柱にも巣をかけたスズメバチ

赤バチの巣が大発生

8月中旬から下旬にかけて、村内各地で赤バチ（スズメバチ）の巣が大発生しました。ハチに詳しい方々の話しでは「気候の影響なのか今年は例年以上の数」とのこと。橋の下や家の軒下、電信柱など人通りが多い場所でもよく見かけられ、ハチに刺されるとい事故も多発しました。

しかし、珍味で知られるハチの子をめぐって、各地で活躍する名人にとっては大忙しの夏だったようです。



交通安全キャンペーンを行ったキャラバン隊の皆さん

みんなですすめる交通安全

8月26日、交通安全を呼びかける全国キャラバン隊が本村を訪れ、保健センター「すこやか館」の玄関前でメッセージ伝達式を行いました。同キャラバン隊は、県交通安全母の会会長の甲斐カズ子隊長を中心に7名で構成。県内をまわりながら交通安全の意識高揚と事故防止を訴えました。

本村では、交通安全協会や村関係者のほか、村交通安全母の会（古川アヤ子会長）の会員が、「交通安全は家庭から」という横断幕を持って出迎えました。伝達式では、キャラバン隊から内閣官房長官のメッセージなどが伝達されたほか、本村からも各団体代表者の交通安全に対する決意や信条が署名された色紙を贈りました。

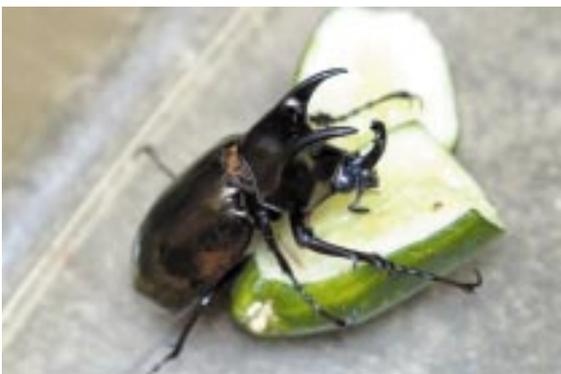


リヤカーで世界を冒険している永瀬さん

「リヤカーマン」再び来村

8月31日、リヤカーを引いて全国縦断中の永瀬忠志さんが本村を訪れました。永瀬さんは今年7月に北海道を出発し、大分県やまなみハイウェイ、熊本県阿蘇を經由して本村に到着。さらに西米良村、小林市から鹿児島県佐多岬のゴールをめざしているとのことでした。

永瀬さんは、アフリカ大陸など世界の大陸をリヤカーで横断する冒険家。本村とは縁が深く、30年前の全国縦断の際に訪れて以来、平成5年村成人式でも講師を務められました。「今回は当時お世話になった人へのお礼の旅でもある」と語る永瀬さんは、懐かしそうに椎葉の風景を眺めていました。



発見された「ボルネオオオカブト」

カブトムシの新種発見！？

8月31日、上椎葉中1に住む黒岡力さん宅近くで、めずらしいカブトムシが発見されました。初めは普通のカブトムシだと思って手にしたという黒岡さんは、「3本角と薄茶色の光沢に新種が突然変異ではないか」と大変驚かれたとのこと。

昆虫図鑑などで詳しく調べてみると、「ボルネオオオカブト」というボルネオ島（インドネシア）の高地でしか生息しない希少な種類であることがわかりました。飼育されていたものが逃げ出した可能性もありますが、原因は不明。現在、外国産のカブトムシやクワガタが人気ようですが、生態系が崩される恐れがあるので、十分注意しながら飼育してほしいものです。



県青年大会で大活躍

9月3～4日、宮崎市で第54回宮崎県青年大会が行われました。同大会には県内各市町村の代表となった青年団員が参加。本村からも野球や剣道などに34人が出場しました。

本村青年団は日頃の練習の成果を発揮し大活躍しましたが、中でも剣道個人女子の部では本村選手同士の決勝となり、椎葉智恵美さん（向山日添）が優勝、尾前美鈴さん（鶴ノ平）が準優勝。また男子の部で中瀬秀樹さん（臼杵又）が3位入賞と素晴らしい成績を残しました。

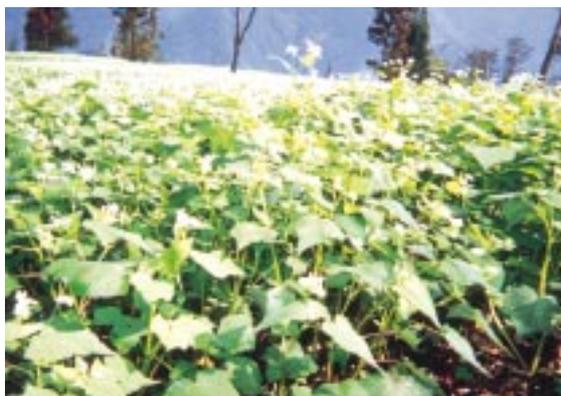


活躍した本村青年団の代表選手

焼き畑ソバが満開

9月中旬、村内各地でソバの花が満開となりました。椎葉善市さん（向山日添）宅の焼き畑30アールでも、台風を凌いだソバが白い花をつけました。毎年、秋の収穫を楽しみに焼き畑を続けているという椎葉さん。ほかにもヒエとアワを20アール作っているそうです。

今後、栽培が順調に進めば10月上旬からヒエとアワ、10月中旬にはソバが収穫される予定とのこと。「もう台風が来ないように」と心配そうに話されていました。



椎葉善市さん宅（向山日添）のソバ畑

椎葉牛が優等賞首席に

9月13日、延岡家畜市場で東臼杵郡9月期子牛共進会と第53回総合共進会が行われました。同共進会には、子牛雌、同去勢、肉用種種牛の3部門に管内から86頭が出場。専門家による審査の結果、同去勢の部で那須久喜さん（松木）の「福久」（父・福之国、母の父・安平）が優等賞首席に選ばれました。

生産農家にとっては、台風14号被害など飼育管理が困難な状況にありましたが、高品質な椎葉牛を証明する結果となりました。



那須久喜さん（松木）と去勢の部 1の「福久」

秋空の下、稲刈り始まる

9月下旬、村内各地の農家で稲刈りが行われました。松岡則男さん（下松尾）宅の棚田でも、黄金色に輝く稲がコンバインや手鎌によって次々と刈り取られ、天日干しに。台風の影響でやや不作とのことでしたが、無事収穫できひと安心されていました。

しかし、村内では台風14号の被害で田畑が流出したり、稲が倒れてしまったりと収穫できない集落もありました。昨年から連続して被害を受けた方もいて、稲作農家の存続にも深刻な影響を与えています。いつまでも黄金色の棚田が見られるよう祈りたいものです。



松岡則男さん宅（下松尾）で行われた稲刈り